



画像：NASA くじら座の星ミラ

2017年2月25日

ざ へんこうせい  
くじら座の変光星  
こうど きょくだい  
ミラの光度が極大！

発行：福岡県青少年科学館

日暮れの頃の西の空には、まだ秋のなごりの星座たちが見えています。ギリシャ神話に登場する、お化けくじらが星座になったくじら座です。そのくじら座の、のど元あたりにある星をミラと言います。ミラは変光星で、約322日周期で明るさが変わる星なのです。2月25日ごろ、光度（明るさ）が極大になるとされています。ミラの赤い輝きは3～4等級になり、久しぶりに肉眼でも確かめられる明るさになります。日の入り後、西南西の空に注目してみてくださいはいかがでしょうか。



画像：久留米市 2017/2/25 19:12 pm (日の入り1時間後の空)  
ステラナビゲーターVer.10 で作成

**『変光星』とは** 夜空に輝く星には、明るさが変わる星があります。こうした星は『変光星』と呼ばれています。変光星には、周期的に明るさを変えるものと、不規則に明るさを変えるものがあります。（くじら座のミラは周期的に明るさを変える変光星です。）なぜ明るさを周期的に変えるかということ、星が年老いて不安定になり、膨張と収縮をくり返すためです。これまでに3万個以上の変光星が発見されているうち、ミラは1番最初に発見された変光星です。ミラには「不思議」や「驚き」という意味があります。当時の天文学者たちにとって、明るさが変わる星があるということが、よっぽど「不思議」に思えたのでしょう。